2025 年 11 月 1 日

岡部昌平

第 381 回山口西田読書会のプロトコル（2025 年 11 月 1 日開催／同 11 月 8 日配付）

【テキスト】

岩波書店『西田幾多郎全集』（旧版）第四巻「知るもの」三の第 1 段落（338 頁）「時は変ずるものである」から第 3 段落の終わり（340 頁）「経験内容について述語する事実的知識という如きものに至っては（中略）具体的一般者に於ける主語的方面と述語的方面とが分裂するのである」までを読了。

【キーセンテンス】

具体的一般者は自己自身に同一にして自己の内容を与えるといふ意味に於いて直覚的であるが、自己自身の内容を含み之について述語するといふ意味において一般概念的でなければならぬ（340 頁 10 行目）

【問い】

変ずるものの根柢にある一般的なるものは、抽象的概念を越えて自己の内に所与の原理を蔵し、自己の内容を与える具体的一般者であるが、ここに二つの個物があるとき、個物 1 と個物 2 の根柢にある一般的なるものは具体的一般者 1 と具体的一般者 2 になるのではないか。

個物 1 と個物 2 が（ひいては森羅万象が）、そのまま、ありのままに無限の広がりを持つものと関係するとしたら、それはどのように説明されるか。